

東京都立小笠原高等学校

【活動テーマ】島しょにおける海洋教育を通じた地域創生人材の育成

【実践の概要・ねらい】

他地域との交流において孤立している小笠原をはじめ東京都の島々で生きる生徒に、海洋島の自然環境を守る活動や海洋文化及び海に親しむ産業について認識を深め、島しょ高校生の横のつながりをつくり、島の良さに気付かせ、地域のもつ課題の共有と改善策の協議を通して思考力・判断力・問題解決力・表現力を培い、海洋文化を踏まえた地域創生人材を育てる。

【実践計画及び実践】

1. 島しょ高校生サミット

・島しょ都立高校7校の生徒の代表が集まり、研修・情報交換を行いながら課題の共有、改善策を協議し、島（地域）の良さに気付かせるとともに生徒間の横のつながりをつくり、海洋文化を踏まえた地域創生を担う人材を育てる。生徒会と希望者1名の4名が参加。

・平成29年7月24日（月）～25日（火）、島しょ高等学校長会主催の7校連携行事として都立大島高校で開催。

・事前に準備をして会議に臨み、①町役場表敬訪問、②各学校紹介・生徒会取組紹介、③懇親会（ウェカムパーティー）、④テーマ別協議と発表、⑤島内見学、に参加した。

○参加生徒が島の良い点と課題に気付き、自分の住む島の問題・課題に関心を持ち、その解決する方向性を考える等参加生徒に大きな変容が見られた。また、生徒間のつながりができた。

2. 小笠原の海洋文化・自然環境の学習

・小笠原で活躍されてきた方を招いて、小笠原の海洋文化や海にかかわる産業を学び、島に誇りを持ち、地域創生を担う認識を深める。

(1) 海洋教育講座1「アウトリガーカヌーの歴史」

・平成29年7月11日（火）

全学年が受講。長年、島でカヌーを広められてきた方から小笠原の特色や伝統航海法等について講義を受けた。

○自然にねざした島嶼の文化を掘り起こして誇りをもとうとのメッセージをいただいた。

(2) 「兄島野外活動」

・平成29年11月10日（金）～11日（土）

1年生が「人間と社会」の奉仕活動として実施。海洋島である小笠原の自然を未来に引き継ぐために、国や都、村が自然保護活動に尽力している兄島において、その活動を知り、自然保護に貢献する力を養った。環境省小笠原自然保護官事務所・林野庁小笠原諸島森林生態系保全センター・小笠原村役場環境課から計6名が講師となり兄島の大地で小笠原固有種の生態系を守る活動について理解を深め外来種の駆除活動を行った。

○兄島の自然保護活動に参加することで、他とは隔絶された海洋島の貴重な自然環境の価値を認識し、未来へ受け継ぐ担い手としての自覚を高めた。

(3) 海洋教育講座2「海と親しむ産業」

・平成29年12月22日（金）

全学年が受講。長年にわたってダイビングや海洋観光等、海洋に触れあう産業に従事されてきた方から、これまでの取組やこれからのビジョン、高校生に期待することについてお話をいただいた。

○地域の海洋産業について理解を深めるとともに、生徒が小笠原の地域創生を考える機会となった。

3. 海の安全教室

・平成29年7月11日（火）

全学年が受講。海に従事する海上保安庁の方から高校生が巻き込まれやすい海難事故について解説してもらい、より深く海を知り、海に親しみ、安全意識を高めた。

○全員の海の安全に対する意識が高まった。

4. 都立八丈高校との交流

- ・小笠原と八丈の文化・自然の共通性や差異から海洋と文化・自然を理解し、小笠原のアイデンティティを確立する。また、島しょ間の関係性を考察する。
- ・平成29年12月23日（土）～27日（水）
- ・全学年から2名選考し派遣。①歓迎式、②体験入学に参加し地元中学生と交流、③歴史民俗博物館訪問、④ちびっこグルメコンテスト見学、⑤底土海岸にて海洋生物調査、⑥八丈高校生生徒会との交流、⑦ビジターセンター訪問、⑧島内各所視察、の各活動を通して、当初の目的とともに次年度以降の「都立八丈高校との交流」のプログラムの基礎を固めた。

○小笠原と八丈のとの差異については、歴史・文化では八丈は小笠原に比べてはるか古くから本土との繋がりが強く、海洋生物に関しては、両島に共通し海洋のつながりが推測できる種と、異なる隔絶された環境で分化したと考えられる種が混在することが分かった。交流を通して両校生徒の来年度の交流や島しょ高校生サミットに対する期待が大きく膨らんだ。

5. 小笠原の将来を海洋教育の視点から考える活動と発信

(1) 他校との交流・連携の推進、島しょ7校との交流

- ・二学期に小笠原高校生徒会が島しょ高校生サミットに関する事後アンケートを作成し、島しょ7高校に送り、そのアンケート集計を行った。

(2) ネットやポスターを利用した研究成果や情報発信

- ・平成29年11月26日（日）、自然保護研究会の部員が、理数研究校として調査研究してきた「外来種と競合する島のカワニナを呼び戻すためにー世界自然遺産小笠原諸島・父島河川に生息する固有種カワニナの保全計画ー」について東京都教育委員会主催の「科学の祭典」でポスター発表した。

(3) 「第1回島しょ高校生サミット」等報告会

- ・平成30年1月26日（金）、海洋教育の取組の一環である標記の報告会を開いたところ24名の島民の方々が参加され質疑応答が行われた。しっかりと学んできたからこそ、質問にもすぐにしっかりと答えられる姿に生徒の成長を感じた。

【今年度の実践の成果と課題】

1. 島しょ高校生サミット

参加生徒が、一泊二日の協議会を経て、地域への関心や地域の課題とその解決に向けての意識を高め、大きな変容が見られた。また生徒同士の横のつながりもでき、未来の島しょ地区を創生していく人材育成の基礎がつくられた。継続して、さらに課題設定力、調査力、課題解決力、表現力、協働する力等が培われ、島しょ7高校の生徒が地域づくりに力が発揮できるプログラムにしていくことが課題である。平成30年度は小笠原高校で、平成31年度は三宅高校で実施予定である。

2. 小笠原の海洋文化・自然環境の学習

海洋教育講座は、島しょ地域の航海術や海と親しむ産業について知見を広げることができた。継続して「海を知る・海を親しむ・海を守る・海を利用する」ことについて知見を広げていけるよう講師をお願いしていく。また、兄島野外活動は貴重な世界自然遺産の地における自然保護活動についてフィールドを通して体験でき、海洋島の自然を未来に引き継ぐための知見を深めることができた。さらに効果的で継続していくことができる体験活動にしていくことが課題である。

3. 海の安全教室

具体的な地域の海難事故を基に安全意識を高めることができた。さらに海上保安署に「海を知る・海を親しむ・海を守る・海を利用する」面から継続して協力をお願いしていく。

4. 都立八丈高校との交流

当初の研究目的が遂行され、次年度の交流プログラムの基礎をつくることができた。教員異動のサイクルが早い島しょ地区において、今度は都立八丈高校を受入れる側として、プログラムをしっかりと立て、校内体制をつくっていくことが課題である。

5. 小笠原の将来を海洋教育の視点から考える活動と発信

事後のアンケート依頼と集計を通して7校との交流が深まった。また「科学の祭典」での研究発表や成果報告会は生徒の表現力と自信を高め、島民への良い広報の場となった。年度内に母島で成果発表会ができなかったが、次年度は、父島・母島、また将来は内地でも発表のチャンスをつくりたい。

【実践から得られた教訓や克服すべき課題や困難】

- ・実際に現地に異なる島の7校が集まることで、島しょ間でも大きな差異があることを認識できた。
- ・島しょ間のアクセスの悪さ・不便さ。小笠原からは特に移動に膨大な費用と時間が必要であること、また、台風等の天候に大きく左右されることが難点である。

【主な連携機関と内容】

- ・明治大学文学部藤井剛特任教授（島しょ高校生サミットアドバイザー）
- ・環境省小笠原諸島自然保護官事務所、林野庁小笠原諸島生態系保全センター、小笠原村環境課（生態系保全活動支援）
- ・東北大学大学院研究者（小笠原の海洋生物等の調査研究）他

活動テーマ「島しょにおける海洋教育を通じた地域創生人材の育成」

【実践の概要・ねらい】

他地域との交流において孤立している小笠原をはじめ東京都の島々で生きる生徒が、海洋島の自然環境を守る活動や海洋文化及び海に親しむ産業について再認識し、島の良さに気付くことで島しょ高校生の横のつながりをつくり、さらに地域のもつ課題の共有と改善策の協議を通して思考力・判断力・問題解決力・表現力を培い、海洋文化を踏まえた地域創生人材に育つことを目的とする。

- 島しょ高校生サミット：島しょ都立高校7校の生徒の代表が集まり研修・情報交換を行いながら課題の共有、改善策を協議し、島（地域）の良さに気付くとともに生徒間の横のつながりをつくり、海洋文化を踏まえた地域創生を担う人材へと育つことを狙いとする。
- 小笠原の海洋文化・自然環境の字音：小笠原で活躍されてきた方を招いて、小笠原の海洋文化や海にかかわる産業を学び、島に誇りをもち、地域創生を担う認識を深める。・兄島の自然保護活動に従事している活動に参加することで、他とは隔絶された海洋島の貴重な自然環境の価値を認識し、未来へ受け継ぐ担い手を育成する。
- 海の安全教室：海に従事する海上保安庁の方から高校生が巻き込まれやすい海難事故について解説してもらい、より深く海を知り、海に親しみ、安全意識を高める。
- 都立八丈高校との交流：小笠原と八丈の文化・自然の共通性や差異から海洋と文化・自然を理解し、小笠原のアイデンティティを確立する。また、島しょ間の関係性を考察する。

【主な連携機関と内容】

- ・明治大学文学部藤井剛特任教授（島しょ高校生サミットアドバイザー）
- ・環境省小笠原諸島自然保護官事務所、林野庁小笠原諸島生態系保全センター、小笠原村環境課（生態系保全活動支援）
- ・東北大学大学院研究者（小笠原の海洋生物等の調査研究）

	体験的な活動	探求的な活動	表現・交流活動	体験・探求
7月	安全 ①海の安全教室(1)特別活動 * 全学年 ・海難事故を知る・海を知る・海に親しむ・安全意識を高める	環境 海洋文化 ②アウトリガーカヌー(1)海洋教育講座① * 全学年 ・アウトリガーカヌーの歴史を知る。・島しょの海洋文化を知る。		環境 生命 自然保護研究会による小笠原の生物調査及び地域のNPO等への協力活動
8月	海の利用 人材育成	③島しょ高校生サミット(14)学校行事 * 生徒会+希望者 ・町役場表敬訪問・各学校・生徒会取組の紹介・懇親会での情報交換・交流・テーマ別協議と発表・島内見学		
9月		・島しょ高校生サミット後のアンケート・生徒会同士の交流・アンケート集計と記録の作成		
10月	環境 生命		人材育成	
11月	④兄島野外活動(12)「人間と社会」* 1学年 ・小笠原の生態系保全活動について理解を深める・外来種の駆除等の保全活動に協力する		⑦科学の祭典(1)* 自然保護研究会 ・東京ビックサイトにおける報告会に参加	
12月	海の利用	⑤海と親しむ産業(1)海洋教育講座② * 全学年 ・地域の海洋産業に就いて理解を深める。・生徒が小笠原の地域創生を考える機会とする。		
1月	環境 海洋文化	⑥都立八丈高校との交流(32) 学校行事 * 希望者 ・八丈高校の海洋教育・活動を知る・海洋生物等の調査を通して共通性と差異を探る。		人材育成
2月			⑧成果報告会(1)* 生徒会 ・広く島民に活動を報告し質疑応答を。	
3月	人材育成	第2回島しょ高校生サミットの計画・立案(4) 生徒会		